

平成25年度 第2回旭市道の駅建設準備委員会 会議録

日 時：平成25年6月26日（水）

午後3時～午後5時15分

場 所：市役所3階委員会室

事務局：企画政策課

1. 開会

海匠漁業協同組合より委員の変更届があり、前任の守部委員から変更となった「土屋青市委員」を紹介

市長より委嘱状を交付

2. あいさつ

委員長：今年度2回目の準備委員会に参加いただきありがとうございます。今後も第3セクター設立準備等の重要な協議事項がありますので、よろしく願います。

市長：本日も忙しい中ご出席いただきありがとうございます。昨年度策定した実施計画書に基づいて色々な団体に対し現在周知している状況である。また、この実施計画書については先日議会へも説明をしたところである。市民の皆様に道の駅に協力してもらえたらありがたいと考えている。本日の資料にもあります日経ビジネスにも「道の駅が地方を救う」と大きく掲載されているが、経済全体が低迷している中で、旭市においても何か経済活性化への起爆剤をつくらなくてはという強い思いがある。企業誘致という方法もあるが、地方にはなかなか進出が難しい現状なので、道の駅が経済活性化の起爆剤となればという期待を大きく持っている。現在九十九里浜沿岸の自治体が順次道の駅の整備計画を進めており、近隣地域との競争も予想されるので、旭市の特徴を出した差別化が大事になるだろう。今後も委員皆様の知恵をいただきたい。また、各団体等の意見も集めていただきたいと思うので、よろしく願います。

3 議題

(1) 各団体への計画周知後の意見集約と報告について

- ・広報周知内容、近隣市町村（九十九里エリア）での道の駅等の計画について資料に基づき説明
 - ・タイムスケジュールの変更点について説明
 - ・各団体からの意見内容（集約）について説明
- ※いずれも事務局により説明

各委員からの意見

委員：当方で運営している直売所では、現在約40名の生産者で出品等を行っている。様々な意見はあるが、大多数が期待している。

委員：前回会議からの参加のため、自分の立場からはまだ当団体への説明はしていないが、賛成と反対両方の意見があるようだ。今後内容をよく把握し、会員への説明と意見集約をしたい。

委員：会議内容については所属団体の本部へ復命している。道の駅には基本的に協力する方向で団体内でも話が進んでいる。出品と出資の大きな2項目がある。出品については、当方で運営している直売所の出品者を基本に考えている。道の駅には、旭の特徴ある農産物を出していきたい。また、生産者個人からの出品を第一に考えたい。出資金については、詳細が今後決まってくると思うので、現状は会議内容の報告に留まっている。今回準備委員会終了後に常勤役員を交えてもう少し詳しく報告し、役員の意見を伺う予定である。

委員：県から認定を受けている指導農業士会の中で道の駅の話が出たが、内容についてあまり把握していない様子である。本来ならばその方達がバックアップしていただければ非常によい。指導農業士会と事務局（企画政策課）を交えて話しをする場を設けていただけると、農業のプロの方達なので貴重な意見がいただけるだろう。

委員長：今の意見について、事務局はどのように考えているか。

事務局：事務局からも是非お願いしたい。

委員：当生産者組合では、道の駅には是非協力したいと考えている。花を全面に押し出した施設運営をしたい。花でお客を呼び、花を見ながら食事をする施設も提案したい。また、花を利用したリピーター確保に努めたいと思う。

委員：建設常任委員会で県内多数の道の駅を視察しているが、花をメインとした道の駅はないので特徴が出せるだろう。

委員：道路利用者が何を目的にその道の駅に行くのかと考えたが、やはり特徴のある道の駅だろうと感じた。地域性を出し差別化を図るのは非常に難しいが、皆様それぞれの知恵と技術を出し合ってなんとかしたいと思う。先日圏央道が一部開通した。圏央道と銚子連絡道の一部を使って行ってみたいと感じるような道の駅にしたい。また、県の6月定例議会で「道の駅の防災拠点としての県の考え方について」という内容の質問があった。東日本大震災や新潟県中越地震等の大災害時に、道の駅が防災拠点として大いに活躍した実績もあり、千葉県でも災害時には防災拠点となるよう期待している。防災面もうまく取り入れ、他の道の駅にはない魅力を出したい。

委員：以前の会議でも防災機能としてソーラー発電の提案が出ているが、防災となれば蓄電池を併設しなければならないだろう。是非蓄電機能を備えたい。この機能は他の道の駅でも取り入れられ、LED照明等も活用しているようだ。

委員：今までは単なる利用者であったが、今後はどのような特徴を出せばいいのか考えなくてはならない。近隣の道の駅は直売所がメインであるようだが、旭市特有の機能は何ができるか、付加価値についてはどういうものになるのか等を検討したい。

委員：旭市には観光資源が乏しいため新たに作る必要があるのではないか。先日私どもの業務の話しになるが、JAにも協力していただき、はとバスによる農産物収穫体験ツアーを7月に実施することになった。貴味メロンを収穫し試食した後、飯岡宿泊組合にて磯がきの昼食を取るといった内容である。ツアーの最後に何処かに寄りたいとのことで、当初は鎌数の工場を見学し、買い物する予定であった。これは工場の都合で実現しなかったが思わぬところに観光資源はあるものだと感じた。それに代わる場所を検討したが大型車の駐車の関係で断念し、最終的には市外の直売施設になってしまった。道の駅があれば対応できたため非常に残念である。また、企業の新商品開発等の支援をしているが、トマトで作ったジャムや福幸（復興）弁当が開発されており、是非これらをPRしたいと考えている。また、開発している企業からも「売る場所」がほしいとの声を多く聞く。市内の集客施設には大型車の駐車場があまりないこともあり、道の駅をなるべく早く整備してほしいという意見が多数出ている。

委員長：旭市の観光において、大型車の駐車場が確保できていないのが最大の欠点である。大原幽学も観光施設としてはいい場所だが販売機能がないため、帰りは近隣の道の駅等にお客が流れてしまう。早期完成に向けて事務局には準備等改めてお願いしたい。

委員：建設地についての質問が一番多い。具体的には、「アクセス道の北か南のどちらか？」「通常だと交通量の多い国道沿いに立つのでは？」等である。将来的な道路計画等も考えた結果の立地選定であると答えている。また、若い夫婦が子連れで週末サーフィンをしに来る方が増えている。その方達に伺うと、市内のスーパーや近隣の道の駅で昼食等の材料を購入するとのことだった。「何故か」と尋ねると、鮮度がよいからとのことであった。

委員：私どもの仕事では、直売向けの野菜を作る方を対象とした技術指導を考えている。また、農産物加工に取り組もうとする女性が多いため、起業セミナーという形でやってきたが、なかなかリスク（売り先が不透明な中でなかなか一歩踏み出せない現状）があるため起業まで至らない。今年は2名を対象に企業セミナーを行うが、道の駅にはそういった方達のチャンスの中場としても期待している。

委員：消費者の立場としては、旭の特色を全面に出したいという考えが強い。かんぼの宿はほぼ毎日満員という盛況ぶりであるが、散歩をしている宿泊客から、「この辺でおいしいものをいただくには何処に行けばよいか。」「お土産等を買うには何処へ行けばよいか。」との質問をよく受けるが、道の駅がない現状は近隣の道の駅等を紹介している。また、市内にもすばらしい加工品を作っている方がいるため、そういった方にも是非参加してもらおうことで、集客効果を高めることに期待ができるのではないか。

委員：道の駅に対して反対の意見も聞くが、そういった方は道の駅に関心があるということで、全く無頓着であれば話題にもしないだろう。何故反対なのか理由を聞くと今からの整備では遅いとのこと。では、どうすればその遅れを取り戻せるのかと尋

ねると。他の道の駅ではないものを扱うことであり、旭市では魚になるのではないかとのことであった。また、高齢者の方から手袋や手作りの装飾品等は出品できるかとも聞かれる。多くの方がこの道の駅に期待を持っている。どうしても直売所がメインに考えがちであるが、市民が気軽に立寄り、「食べられる」「休める」「遊べる」の機能を持たせたい。そう整備すれば家族連れ等にも非常にいいのでは。子どもから高齢者までみんなが楽しめる施設にしたい。また、現在は車社会なので、旭市の特徴を打ち出すことで県外からも集客できるのではないか。また防災機能を整備することで安心して利用できる施設になるだろう。

委員：委員となってからまだ日が浅いため、今後内容を熟知してから団体内の意見を聞き取りまとめたい。

委員：先日は私どもの団体に対し、事務局による説明をしていただきありがとうございました。当団体も補助金団体なので多くの出資は出来ないが、団体内の会員から出資希望を募りそれらを取りまとめる様な役割になってくるのではないか。また、団体員へ準備委員会の会議内容の報告は行っているものの、道の駅に関して個人的な考え方を持っている会員があまりいない現状。まだ内容の周知が足りないのではと感じた。私からも継続して内容の周知は行いたい。また、意見の中には事業に失敗した場合誰が責任を取るのかというマイナス意見もあるが、当団体としての総意ではないということで理解してもらいたい。今後様々な事項が決定してくれば、当団体でも具体的に検討ができると思う。また必要に応じて今後も事務局による説明を依頼することもあるだろう。食品衛生協会内の若い世代から活躍の場がほしいという意見をよく聞く。飲食店を営んでいる若い世代は色々考えている様子で、道の駅のイベント広場にテナントつくってほしいとの意見もあった。

委員長：食品衛生協会には事務局による説明も行っている。高い関心を持っている方も多数いて、既に出店希望の声も聞いている。また、出店者や出品者は事業に失敗したら撤退すればいいという考えでは困るので、責任感を持っていただくためにも多少の出資はしてもらおうべきという意見が議員の中で出ている。

委員：当団体内では道の駅に前向きな意見も多く、多数の道の駅への視察研修を実施している。

委員：先日の議会全員協議会において実施計画書の報告が済んだところである。旭市は野菜、米、肉の生産バランスがよく、品数の多さにおいても全国屈指の大産地である。そのため供給体制は十分とれるであろう。最近は九十九里沿岸の他市町村による道の駅の計画が進んでいるため、道の駅間での競争が予想される。しかし道の駅巡りとして連携することで、チャンスにすることも可能ではないか。また、地域の特色ある産品を多数つくる必要もあるだろう。旭市は夏季集中型観光なので、道の駅を核とした周年観光プランを考えなければならない。銚子連絡道の計画と旭中央病院の存在をみると、とてつもない爆発力を秘めた道の駅になるであろう。ただ、最初はある程度様子を見ながら随時いいアイデアを取り入れていき、10年後には売り上げが倍になるような運営が理想である。

委員長：本日はアドバイザーが不在なので、今回の委員の意見については事務局において集約していただきたい。

事務局：了解。

市長：本日もすばらしい意見を多数いただきありがとうございます。皆様の意見を伺い、旭市の特色を出す事がいかに重要かを改めて感じた。消費者の立場としての意見も非常に参考になった。また、各団体の皆様には道の駅に関わる体制をどのくらいできるのかを、取りまとめていただきたい。例えば、花であればどの位の方が、どれ位の量を、どれくらいのスペースで出来るのかということである。また水産加工物等は旭市最大の特色になる可能性がある。そういった意見集約を是非お願いしたい。

(2) 駅長の募集方法と採用時期の検討について

- ・道の駅「しもつけ」での事例紹介
- ・募集方法等について資料に基づき説明

各委員の意見

委員：駅長は道の駅の運営において最も重要な事項であろう。地元とは関係のない方でもいいのではないかと感じた。地元とのしがらみがマイナスになることもあるだろう。いいものはいいと言える駅長が必要ではないか。もちろん地元の方でもいいのだが、様々なしがらみを断ち切る必要がある。

委員：公募することになれば当然間口が広がるので、市外・県外の方になる可能性が出てくるだろう。

委員：全国の多数の道の駅の駅長に会ってきたが、大きく分けて「流通に精通した駅長」と「やる気や情熱がすばらしい駅長」の2パターンになる。当然両方兼ね揃えていれば理想であるがなかなかそういった人材を見つけるのは難しいのではないか。いずれにしても重要な事項であるので、今後も検討が必要である。

委員長：市内の道の駅類似施設経営者の話でも、とにかく駅長が道の駅の運営を左右することになり、発展の近道であるとのこと。これには私もまったく同感である。指名採用と公募の両案を検討し、8月準備委員会で決定したい。

(3) 法人設立準備組織の委員選出方法について

- ・事務局より資料に基づき説明
- ・事務局案「作業部会を設置、委員8名とする」の報告

各委員からの意見

各委員：特になし。

委員長：事務局の原案のとおりでよろしいか。

各委員：異議なし。

事務局：次回委員会にて再度確認をいただくのでお願いしたい。

(4) その他

- ・設計業務公募型プロポーザル評価委員会について
前回委員会にて承認いただいたプロポーザル評価委員5名の内、1名の変更に
ついて事務局より報告。

終 了